

『能登遊記』から読み解く能登の風景特性

神山 藍¹

¹正会員 土木学会 (〒921-8501 石川県野々市市扇ヶ丘7-1,
E-mail: ran.kamiyama@neptune.kanazawa-it.ac.jp)

本研究は、『能登遊記』に描かれた絵図に着目し、能登の風景特性を地理的特性と視覚的特性から明らかにするものである。この結果、地理的特性としては、能登の山海の風景は能登だけに留まらず、越中や越後に及ぶものであることが明らかとなった。視覚的特性としては、風景を表す語句として「地山」「嶋山」「裏海」「外海」「越の海」「越の山」が明らかとなり、これらの語句により、能登の風景を整理すると、7種類の風景に分類できる。能登では、島山と海だけに着目しただけでも、実に多様な風景が現れたと言える。

キーワード: 能登遊記, 風景, 地山, 嶋山, 越の海.

1. はじめに

奥能登の重要無形民俗文化財として残る「あえのこと¹⁾」と呼ばれる儀礼、万葉集の東風（あゆのかぜ）という越中の方言、「あいの風」を唄う能登の舟唄、富山県の方で能登から吹く風を「能登アイ²⁾」と呼ぶ慣習、富山湾の藍色の海色から「あいがめ³⁾」と呼ばれる深海の地形など、先人が注意深く山海の気色を観察してきた結果が辛うじて地方の言葉として残っている。しかし、自然をある程度征服しようとする現代において、これまで培ってきた自然に対する態度は、次第に軽く見られがちになってきていると言えるだろう。現代の社会としては、それも止むを得ない現象と言えるが、風景学の分野においては、これを見過ごすには忍び難い。そこで、能登に古くから残る風景を留め置くために、かつての文献記録を頼りに、風景の再認識することを本研究の目的とする。

2. 研究の対象と方法について

(1) 研究の対象

能登地方に関する紀行文は、元禄9 (1696) 年浅加久敬による『三日月の日記⁴⁾』、享保2 (1717) 年森田盛昌の『能州紀行⁵⁾』などがあるが、文化13 (1816) 年に画家、儒者である金子鶴村 (1759-1840) によって書かれた『能登遊記⁶⁾』は、能登の名跡を記録した藩政期の文献の中で、表現豊かな文章と詳細な絵図と漢詩で構成している点で特殊と言える。

(2) 研究の目的

『能登遊記』は、文化13年3月21日から5月22日までの約2ヵ月間能登の内浦⁷⁾を遊覧した紀行文である。紀行文は本文に加え、14篇の漢詩と27枚の絵図により構成されている。鶴村が特に感銘を受けた地域は、漢詩や絵図によって賛美されている。特に、絵図は山水を中心に実景を模写した点において能登の風景を探る上で貴重な手がかりとなることから、本研究では、絵図に描かれた地域に着目し、そこでの風景の特性を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究ではまず、『能登遊記』の訪問地と旅路を把握する。次に、絵図が描かれた場所の特定を行う。これを、地理的分析とする。次に、本文、漢詩、絵図から風景を表現する言葉を抽出して、最後に、絵図に描かれた風景の特性を明らかにする。これを視覚的分析とする。

(1) 地理的分析の方法

旅路は、まず、『能登遊記』から旅の日付と地名を抽出する。天候などの詳細については、同著者の日記『鶴村日記⁸⁾』からも明らかにする。

次に地名に関しては、旧町名を『石川県の地名』によって確認し、「輯製二十万分一図⁹⁾」を参考に地名の位置および旅路を把握する。これらをGIS(地理情報システム)の地図上に表記し、最後に、絵図が描かれた場所の特定を行う。

(2) 視覚的分析の方法

視覚的分析では、風景の特性を明らかにするために、絵図中の語句と本文および漢詩の語句を抜き出し、山水を表現する語彙の整理し、絵図の分類を行う。山水の語彙の解釈は以下の通りである。

a) 島山に関する語彙の解釈

『能登遊記』の絵図では、能登半島の島山が「地山」「嶋山」という表現で、陸地と離島が細かく区別され、記されている特長がある。

地山とは、一般に「船乗りが、島山に対して、陸地の山をいう語¹⁰⁾」であるが、『能登遊記』では、主に能登の陸地部や連山を指す語句として用いられている。能登および加賀、越中（富山）、越後（新潟）に位置する著名な山は、固有名詞で記されているものの、能登以外の連山は、文中では「越の諸山」と称され、絵図には「越中山」「越後山」と記されていることから、本論では、越の国（ここでは特に越中、越後）の山々を「越の山」として捉える。

一方、「嶋山」は、一般に島の中にある山や全体が山をなしている島¹¹⁾を表すが、絵図では能登島を指す語として用いられている。大伴家持が、能登を巡礼した際に詠まれた旋頭歌には「とぶさ立て 船木伐るといふ能登の島山 今日見れば 木立繁しも 幾代神びぞ¹²⁾」においても「能登の島山」は能登島と限定されることから「嶋山」は能登島として捉える。能登島以外の大小の島は、固有の名前によって記されているのでそのままの表記で捉える。

b) 海に関する語彙の解釈

能登半島周辺の海は、大きく二つに分けられ、能登半島の東側を内浦（海岸）、西側を外浦（海岸）と呼ぶ。内浦海岸は、能登半島北部から中部の富山湾に面した能登島東端辺りから珠洲市にかけての海岸の総称¹³⁾であり、『能登遊記』の旅路は内浦に限られる。内浦には、大きく湾入する七尾湾やリアス式海岸の九十九湾などの景勝地が多く、波が比較的穏やかである。

内浦にある七尾湾は、能登半島の東側中央部が沈降して形成された¹⁴⁾湾であり、その中央に能登島が浮ぶ。能登島には、北の大口瀬戸、西の三ヶ口瀬戸、南の屏風瀬戸、東の小口瀬戸と呼ばれる狭い海峡があり、この四ヶ所で能登半島に接近¹⁵⁾し、これらの瀬戸あるいは地嘴によって、七尾湾は、北湾、西湾、南湾に分けられている（図-1）。本文中では北の大口瀬戸を「甲の大口」と呼び、「蒼海これが（甲の大口）が為に中分す、その西を裏と為し、其の東を外と為す¹⁶⁾」とすることから、本論では、大口の西を「裏海」大口の東を「外海」という語によって海の領域を捉える。

一方、古代北陸一帯の海は「越の海」と称されていた

¹⁷⁾。本文中に度々登場する越中国守大伴家持の詠んだ句には「越の海の 信濃の浜を 行ゆき暮くらし 長き春日も 忘れて思へや¹⁸⁾」や「かからむと かねて知りせば 越の海の 荒磯の波も 見せましものを¹⁹⁾」があり、越中の海（富山湾²⁰⁾）が「越の海²¹⁾」と表現されていることから、本論では、越中、越後に接する遠くの外浦を「越の海」と捉える。

以上、能登周辺の山水を、表-1のように大別し、その領域を図-1のように捉える。

4. 能登の風景分析と考察

(1) 風景の地理的特性

『能登遊記』の旅路は、飯山村まで能登半島の外浦海岸沿いを通っているが、その他は、内浦海岸沿いに経路を取っていることが分かる（図-2）。漠々たる砂浜と大海が続く外浦海岸沿いでは、絵図は描かれず、飯山村からの山間部で絵図1枚、漢詩2篇を読むことに留まっている。一方、所口（現七尾市）から中居までの裏海沿いの岬や入り江においては、頻繁に絵図（8枚）が描かれ、

表-1 山海の風景を表す語句とその領域

語句	領域
地山	能登半島の山稜および陸地部
嶋山	能登島
裏海	能登島の大口（瀬戸）より西側
外海	能登島の大口（瀬戸）より東側および能登半島内浦の沿岸
越の海	富山湾（海色の濃い海）
越の山	越の国（越中、越後）にある山

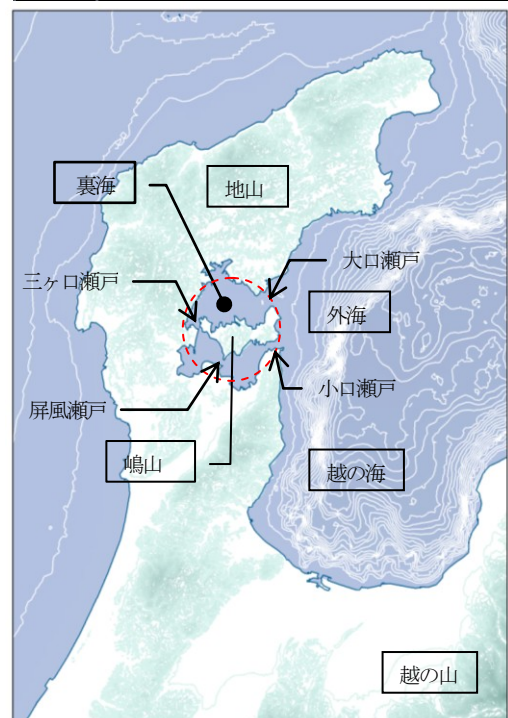


図-1 山海の風景を表す語句とその領域

表-2 訪問地と漢詩・絵図の有無

日付	天候	地名	漢詩	絵図
3/21	雨少曇	金沢城		
	曇天	湯畑村	○	
3/22	天気	笠嶋新村		
		七窪		
		木津村	○	
		高松駅		
		二屋村		
		川尻		
		今濱駅		
3/23	天気	本宿村		
		志雨村		
		飯山村		○
3/24	天気	所口		
3/25	天気			○
3/26	天気	田鶴ヶ浜		○
		白浜村		
		大津		
		塩津		
		笠師		
		川崎村		
		中島村		
		小牧		○
		曾福村		
		3/27	天気	乙ヶ崎
3/28	曇天→晴天	穴水		○
		鶴川		○
		中居		○
3/29	天気	鶴川		○
				○
4/1	曇→大雨			
4/2	晴天	矢波村		
		波並村		○
4/3	晴天	宇出津		○
4/4	晴天	時長村		○
		行延村		
		松波		
		恋路村		○
		鶴飼村		
4/5	曇→快晴			
4/6	雨→晴天	鶴飼村		

日付	天候	地名	漢詩	絵図	
往路	4/7 晴天	恋路			
		松波			
		布浦			
		越坂		○	
				○	
				○	
	4/8 晴天	小木村		○	○
				○	○
				○	○
	4/9	曇→雨	真脇		○
	4/10	雨			
	4/11	天気			
4/12	天気	宇嶋			
4/13	天気	山中村			
4/14	天気(暖気)	折戸村		○	
				○	
4/15	曇天(風少)				
4/16	曇天				
4/17 晴/雨	三崎	川浦村		○	
		狼煙村			
		寺家村		○	
4/18 快晴	三崎	本村			
		庄院			
		飯田			
復路	4/19 (雷)晴/雨	宇出津		○	
	4/20 快晴	宇嶋村			
	4/24 晴/曇	上堂村			
	4/29 晴/曇	蛸嶋	永禪寺		○
	5/1 快晴	高照寺			
	5/2 晴	上堂村		○	
	5/10 快晴	見付島			○
5/17 晴/曇	金峰寺		○		
5/18 雨	真脇		○		
5/19 細雨	宇出津	宇川			
		川尻			
		中居			
5/20 細雨	穴水	新崎			
		湧浦		○	
5/21 晴天	所口				
5/22 天気よし	笠嶋新村				
5/23 天気よし	金沢城				

漢詩3篇が詠まれる。特に、所口に在ったとされる妙観院においては、「勝景の一番先づ此に在り²²⁾」と漢詩を詠んでいることから、この辺りからの風景は鶴村を魅了したと言える。

中居から鶴川までは「武連越」と呼ばれる山道を抜け、鶴川からは再び海岸沿いを通る。宇嶋までの内浦海岸沿いにおいては、漢詩5篇と絵図10枚が描かれる。

庄院から再び山路を取り、能登最北端の地域を一周し帰路に着いている。この間、漢詩1篇、絵図3枚が描かれる。

帰路については、宇出津を基点として周辺の地域に立ち寄りながら、漢詩3篇、絵図5枚を描いている。帰路の途中には、越坂、川尻から中居、穴水から湧浦までの舟遊も含まれる。



図-2 訪問地と旅路

(2) 風景の視覚的特性

視覚的分析では、能登の風景特性を明らかにするために、表-1で示した「地山」「嶋山」「裏海」「外海」「越の海」「越の山」の6つの山水を表す語句により、27枚の絵図を分類し(表-3)、分類した絵図の地理的分布を明らかにした。以下では、絵図の特性について、前項で明らかとなった地理的特性と合わせて述べる。

a) 分類[1]「地山」

分類[1]は地山のみを描いた図であり、山路などが主景となる(図-4²³⁾)。『能登遊記』では、三カ所の山路を通り、そのうちの飯山村の山腰と折戸村の山路が描かれている。山路は文中で「昨日の巒は今日忽ち嶺と作り、今日の嶺は明日却つて嶂と作る²⁴⁾」と述べられており、豊かな山地の起伏によって見え隠れする山の風景は能登の風景特性の一つと言える。

b) 分類[2]「地山」「嶋山」「裏海」

分類[2]は、図-5²⁵⁾のように近景に「地山」「裏海」を描き、中・遠景に「嶋山」を描いた図がほとんどである。一般に、島とは、周囲を水で囲まれた陸地を言うが、絵図には、島が四方を水で囲まれた構図はなく、「嶋山」は、端山または背景としての山のように描かれる特徴がある。

地理的には「地山」「嶋山」を中心とした風景は、所口(七尾)から中居までの能登島周辺の地域に限定される。鶴村が「七尾より、穴水中居に迄まで、嶋山常に景

致と為し³⁰⁾」と記していることから裏海に面する地域の風景特性であると言える。

c) 分類[3]「地山」「外海」

分類[3]では、近景に、城壕などの旧跡、塩濱などの生業、九十九湾などの天然の地形を主景として、「外海」が描かれている(図-6²⁷⁾)。地理的には、宇出津より北方に多く点在し、内浦海岸の地勢的特色が、人々の営みと一緒に風景として描かれていると言える。

d) 分類[4]「地山」「外海」「越の海」「越の山」

分類[4]では、近景に、見付嶋や弁天嶋などの能登の奇勝が「外海」の中に描かれ、遠景に「越の海」「越の山」が描かれている(図-7²⁸⁾)。ここでは、水平線越しに描かれた立山や米山が島のようにも目に映る。

恋路村や能登の北東端に位置する三崎は、東に開いた土地であることから、「越の海」に佐渡(島)が描かれている。鶴川より恋路村辺りまでの海岸沿いからは「越中、越後の山亦常に景致と為す」と鶴村が言うように、能登北東に位置する南向きの海岸沿いからは、海越しに横たわる悠然たる山々の風景が特色として位置付けられていると言える。

e) 分類[5]「地山」「嶋山」「裏海」「越の山」

分類[5]は「嶋山」の背後に「越の山」を重ねて描いている絵図である(図-8²⁹⁾)。「嶋山」と「越の山」の奥行きを知覚させる地表面や水面が描かれていないために、立山があたかも能登に存在するように見える。

前景には、湧浦(和倉)の湯地の様子が描かれている。本文には、「温泉は嶋中に在り」と記され、板橋を渡し

て往来していた様子まで描かれている。湯治場からも立山が望めたことを想起させる絵図である。

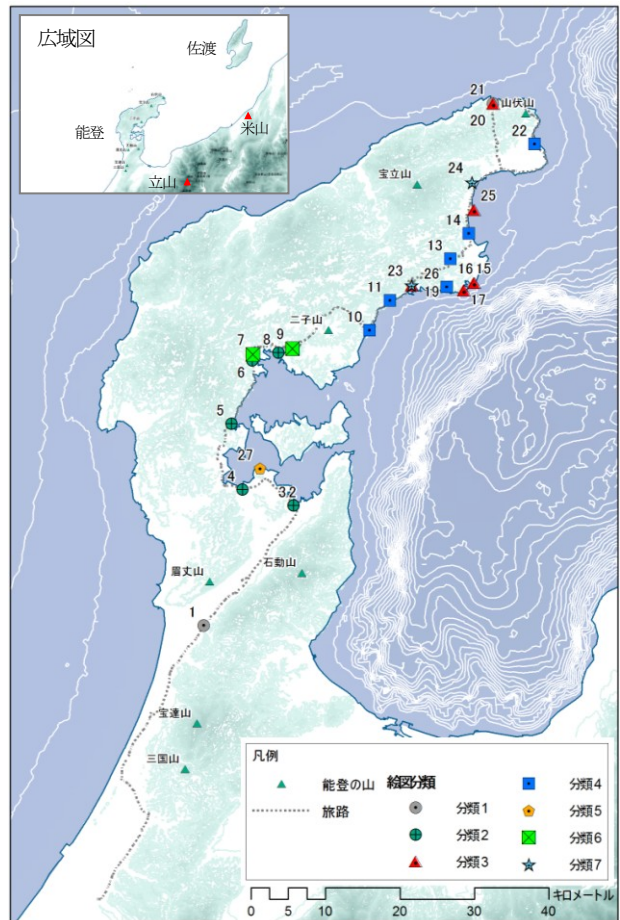


図-3 絵図の分布とその分類

(※図中の番号は表-3の図番号を示す)

表-3 絵図の分類

図番号	日付	地名	絵図題名	分類項目						文字表現		景物	分類
				地山	嶋山	裏海	外海	越の海	越の山	視対象	地名		
1	3/23	飯山村	自飯山之山腰眺邑智湖圖	△	×	×	×	×	×	邑智湖		邑智湖	[1]
2	3/23	所口(七尾)	所口海濱圖	○	○	×	×	×	×	嶋山、地山			[2]
3	3/24	所口(妙観院)		△	○	○	×	×	×	嶋山、妙観院		妙観院	[2]
4	3/26	田鶴ヶ浜	田鶴濱之海湾眺望之圖	△	○	○	×	×	×	嶋山、二子山、羽咋山	湧浦、唐嶋		[2]
5	3/26	小牧	小牧	△	○	○	×	×	×	嶋山、二子山	小牧村		[2]
6	3/27	乙ヶ崎	乙ヶ崎	△	○	○	×	×	×	嶋山、甲大口、甲之地嘴	乙ヶ崎村		[2]
7	3/28	穴水	穴水	○	○	○	○	○	○	羽咋山、越中山、立山、越後米山、二子山、甲之大口、地山、嶋山、城墟、	新崎、乙ヶ崎、岩車、川尻、中居、麦浦、穴水		[6]
8	3/27	中居(舟)		△	○	○	×	×	×	嶋山、二子山	中居		[2]
9	3/28	川尻村(武連越)	武連越	△	○	○	○	○	○	嶋山、越中山、二子山			[6]
10	3/29	鶴川		○	×	×	○	○	○	立山、越後米山			[4]
11	4/2	波並村	波並	○	×	×	○	○	○	立山		(民家)	[4]
12	4/2	宇出津	宇出津	○	×	×	○	×	×	城墟		城跡	[3]
13	4/4	行延村		○	×	×	○	○	○	立山、米山	松波村、布浦		[4]
14	4/4	恋路村	戀路濱	○	□	×	○	○	○	立山、米山、佐渡、塩浜、切通、見付嶋	布浦	塩浜、切通	[4]
15	4/7	越坂(舟)九十九曲	九十九曲	○	×	×	○	×	×				[3]
16	4/7	越坂(舟)九十九曲	其二	○	×	×	○	×	×				[3]
17		小木	小木之海口朝暾	○	×	×	○	×	×			(朝日)	[3]
18	4/8	真脇	自小木之真脇山路眺望之図	△	×	×	○	○	○	立山			[4]
19	4/8	真脇(上日寺)	真脇	○	□	×	○	○	○	立山、二子山、弁天嶋	真脇村		[4]
20	4/13	折戸村	自小院之折戸山路	○	×	×	×	×	×			(山路)	[1]
21	4/14	折戸村	折戸	○	×	×	○	×	×	農長上田氏		農長上田氏	[3]
22	4/17	三崎	三崎	○	□	×	○	○	○	山伏山、越中山、越後山、佐渡、高倉権現、金分権現、高勝寺	寺家村	権現	[4]
23	4/20	宇出津(吼木山)	吼木櫻古株	×	×	×	×	×	×			桜古株	[7]
24		上堂村		×	×	×	×	×	×			大杉	[7]
25	5/10	見付嶋		○	□	×	○	×	×	山伏山、弁天嶋、塩浜、見付嶋	三崎、田子嶋	塩浜	[3]
26	5/18	真脇(上日寺)	真脇漁航	○	□	×	○	△※1	△※1	弁天嶋、上日寺境内		上日寺境内	[4]
27	5/20	湧浦	湧浦	○	○	○	×	○	○	立山、温泉、河口岬、嶋山岬		温泉	[5]

(舟):舟遊 △:文字表記なし □:「嶋山」以外の島 ※1絵図に「立山」の文字表記なし。絵図によって判断



図-4 分類[1]の事例 (「自小院之折戸山路」に加筆)

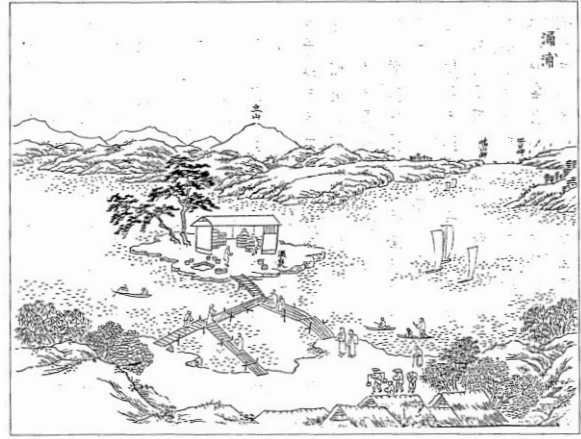


図-8 分類[5]の事例 (「湧浦」に加筆)

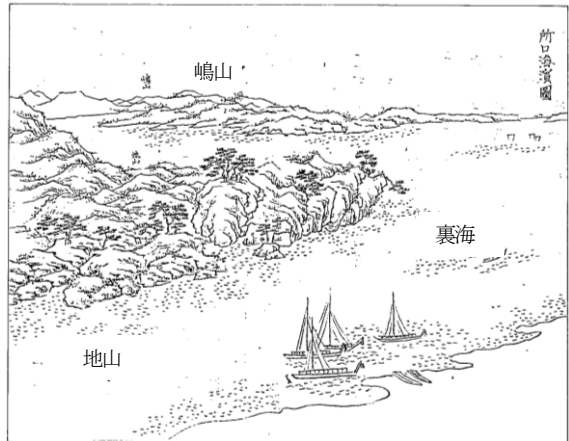


図-5 分類[2]の事例 (「所口海濱園」に加筆)

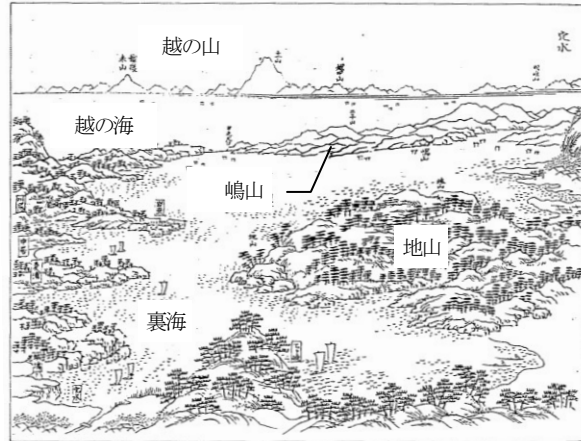


図-9 分類[6]の事例 (「穴水」に加筆)



図-6 分類[3]の事例 (「宇出津」に加筆)

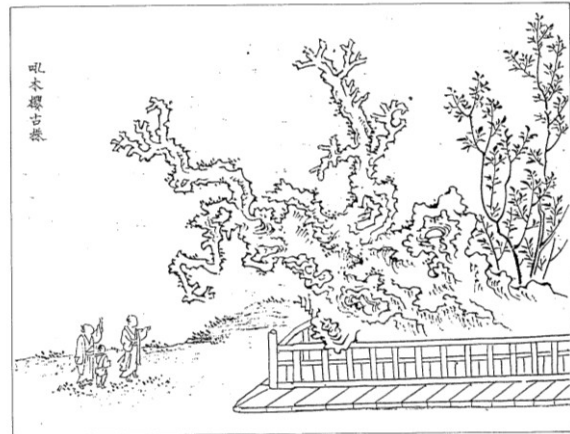


図-10 分類[7]の事例 (「吼木櫻古株」に加筆)

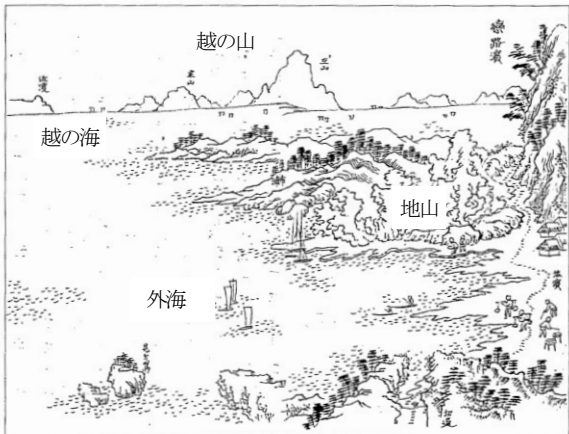


図-7 分類[4]の事例 (「恋路濱」に加筆)

f) 分類[6]「地山」「鳴山」「裏海」「越の海」「越の山」

分類[6]は、鳥瞰図風の構図となっており、能登の島山と越の島山の全貌を描いた絵図である(図-9³⁰)。近景には海に走る能登の諸山を描き、鳴山の地嘴によって隔てられる裏海と外海、遠景には「越の山」が描かれている。本文では、「巖々綿々たる者³¹⁾」を越中の諸山とし、「高低重疊なる者³²⁾」を越後の諸山と称している。中でも特に秀麗な立山を「雪山突兀³³⁾」として紹介する。絵図中でもその山姿が象徴的に描かれている。立山は、家持が「立山に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず神からならし³⁴⁾」と詠んだように、

四季を通じての雪山は鶴村にとっても特別であったようである。この他に、越後の最も秀抜で頂上に雪が残る山として米山を紹介する。そして、このような大景を心に納めることは「一毛孔須彌を納む³⁶⁾」とする仏教の説を鑑み、山海の景勝を観望している。

g) 分類[7]その他「地山」「嶋山」以外

分類[7]は、「地山」「嶋山」以外の景物を描いている絵図であり、桜古株と大杉の2枚が描かれている。絵図(図-10)「吼木櫻古株³⁶⁾」は吼木山を号し、空海創建とされる法住寺あるいはその近辺にあった大桜であることが推測される。ところで、能登の港町や漁村一円で歌われる祝い唄である「まだら³⁷⁾」、珠洲の酒屋唄、曳山唄、舟方唄、には、「奥能登の珠洲の岬の五所桜枝は越後か葉は佐渡へ³⁸⁾」というような文句がしばしば唄われる。地方の民謡の中に、桜の枝ぶりを能登の風景に見立てる精神的表現の豊かさも能登の風景をかたち作る重要な要素として位置付けるべきであろう。

5. まとめ

本研究では、『能登遊記』に描かれた絵図に焦点を絞り、能登の風景特性を地理的特性と視覚的特性から明らかにした。この結果、絵図や本文中から山水の風景を言い表す語句として、「地山」「嶋山」「裏海」「外海」「越の海」「越の山」を抽出した。これらの語句により、描かれた能登の風景を整理すると、以下の特性が明らかとなった。

- ・能登では地山の風景は分類 [2], [3], [4], [5], [6] においても描かれているが、分類[1]のように地山だけであっても、十分魅力的であると言える。加えて、動的視点における魅力もある。

- ・裏海周辺では、能登の島山の風景が秀でていたことが分類[2], [6]から分かる。これは、能登島が、地嘴や瀬戸による複雑な水際線によって形成されているという地勢によるもので、能登特有の風景のひとつである。

- ・内浦海岸には、裏海とは性格の異なる外海の風景が広がる。天然の入り江や波風の浸食による奇岩が奇勝と言える(分類[3])。

- ・越の山や海の風景は能登や富山湾の一部でしか見ることのできない貴重な風景である。霊山として名高い山々を海越しに遠望できる風景は能登の特有の風景と言える(分類[4], [5], [6])。

- ・山水以外を対象とする風景(分類[7])は、本論で紹介した他にも数多い。能登独自の文化による価値観の反映であり、今後は、能登に残る古い言葉や民謡にも着目し、見落とした能登の風景を探す必要がある。

参考文献

- 1) 重要無形民俗文化財。奥能登の農家で行われる田の神祭り。北國新聞社(編集):『石川県大百科事典』, p.185, 北國新聞社, 1993
- 2) 柳田國男:定本 柳田國男集 第1巻, p.6, 筑摩書房, 1968
- 3) とくに氷見市地先の灘浦海岸の海底谷。『日本歴史地名大系』による JapanKnowledge, <http://japanknowledge.com>, (参照 2015-09-09)
- 4) 日置謙 校訂:加賀能登郷土図書叢刊(能登路の旅 続), 石川県図書館協会, 1934
- 5) 前掲書『加賀能登郷土図書叢刊(能登路の旅 続)』
- 6) 金子鶴村(鶴来町立博物館編):能登遊記, つるぎ叢書第一三輯, 鶴来町教育委員会, 1993
- 7) 能登半島北部から中部の富山湾に面した海。
- 8) 鶴村日記 上編 2 :金子有斐(鶴村), 石川県図書館協会, 1976
- 9) 平凡社「日本歴史地名体系」(17) 石川県の地名 特別付録 輯製二十万分一図復刻盤石川県全図を参照。
- 10) 松村明編:大辞林, p.1118, 三省堂, 1992
- 11) 前掲書『大辞林』, p.1099, 三省堂, 1992
- 12) 中西進:万葉集(四) 17巻, 4026首, p.137, 講談社, 2007
- 13) 前掲書『石川県大百科事典』, p.142
- 14) 前掲書『石川県大百科事典』, p.724
- 15) 日本歴史地名大系(17) 石川県の地名, p.792, 平凡社, 1991
- 16) 前掲書『能登遊記』
- 17) 高岡市万葉歴史館:越中万葉百科, p.38, 高岡市万葉歴史館, 2007
- 18) 中西進:万葉集(四) 17巻, 4020首, p.135, 講談社, 2007
- 19) 前掲書『万葉集(四)』17巻, 3959首, p.90
- 20) 富山湾は、明治まで越中湾, 明治中期以降富山湾と称される。『日本歴史地名大系(16) 富山県の地名』より
- 21) 北陸海と称されることもあったようである。『日本歴史地名大系(16) 富山県の地名』より
- 22) 前掲書『能登遊記』, p.15
- 23) 前掲書『能登遊記』, p.50
- 24) 前掲書『能登遊記』, p.39
- 25) 前掲書『能登遊記』, p.11
- 26) 前掲書『能登遊記』, p.39
- 27) 前掲書『能登遊記』, p.35
- 28) 前掲書『能登遊記』, p.38
- 29) 前掲書『能登遊記』, p.75
- 30) 前掲書『能登遊記』, p.23
- 31) 前掲書『能登遊記』, p.28
- 32) 前掲書『能登遊記』, p.28
- 33) 前掲書『能登遊記』, p.27
- 34) 前掲書『万葉集(四)』17巻 4001首, p.122
- 35) 前掲書『能登遊記』, p.28
- 36) 前掲書『能登遊記』, p.60
- 37) 能登の港町, 漁村一円で歌われる祝い唄。『石川県大百科事典』より
- 38) 「金沢市民謡協会」珠洲山曳き唄, www.kanazawashi-minyo.com/suzuyamahiki.htm, (参照 2015-09-09)